

1 研究テーマ 「学校の活性化に向け、教職員の協働意識を高めるための取り組み」

2 はじめに

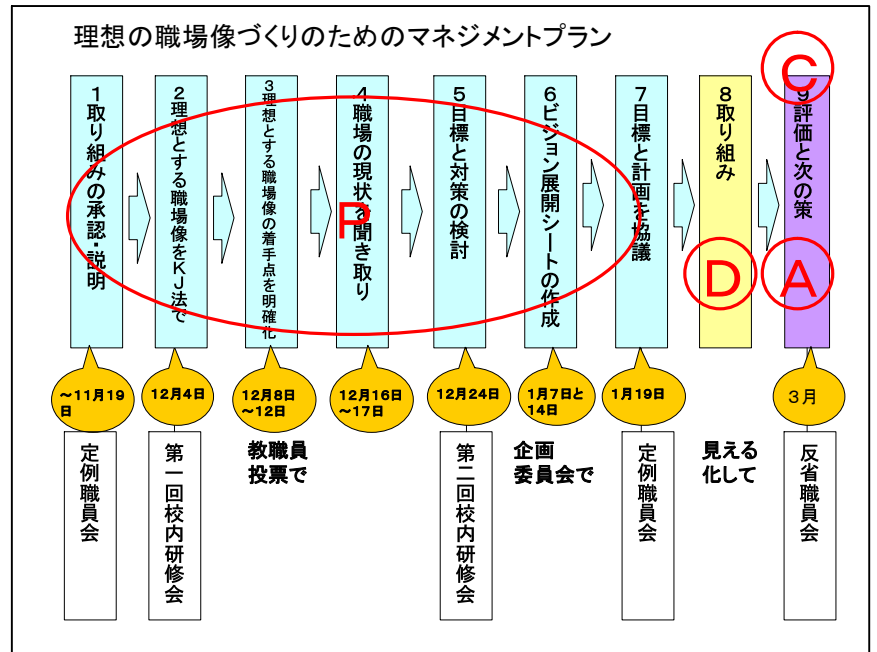
本校の教職員はそれぞれに一生懸命仕事をしているものの、教職員同士の語り合う時間が少ないため、それぞれの持ち味をいかし切れているとは言い難い。そこで、学校組織マネジメントの考えや手法を導入し、いろいろな持ち味を兼ね備えた教職員集団という学校組織の良さをいかしながら、さらに元気な大山中学校づくりにむけて教職員みんなで取り組んでいきたいと考えた。

3 研究目的

学校の活性化を目指し、学校組織マネジメントの考え方を取り入れながら教職員間の協働意識を高めるための校内研修を試み、そのあり方を探る。

4 研究内容

(1) 取り組みの承認・説明
教職員の積極的な参画のもと取り組みが展開されていくように、なぜ取り組みをするのかを明確にした。また右記のように、今後の見通しをできるだけ具体的に時系列で示した。



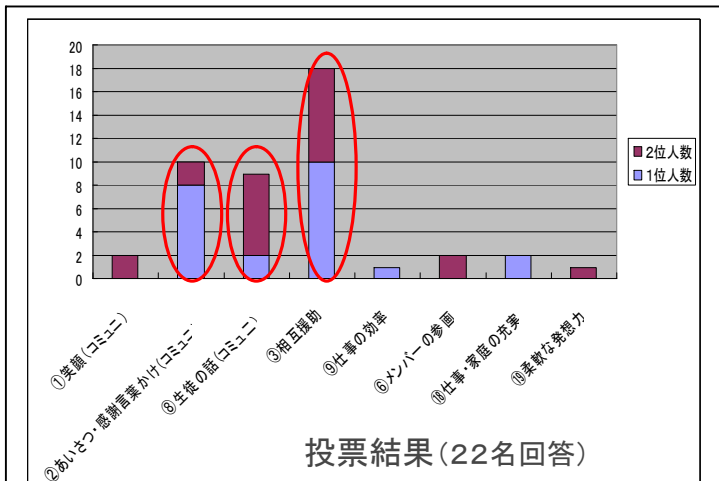
(2) 理想とする職場像をKJ法で

課題を事前提示して時間短縮を図り話し合いの時間を確保することと、ベテランと若手の教職員を混ぜるなどを配慮した意図的グループ編成を行い、学校が兼ね備えている異質性をいかすように配慮した。

(右下はその時つくられた一つ)

(3) 理想とする職場像の着手点を明確化

(2) の話し合いを通してイメージはふくらんだが、目指す理想の職場像を具体化するには至らなかった。そこで付箋紙内容を全て書き出し、分類し、着手ポイントを教職員が投票していくという方法で目指す姿を明らかにしていった。

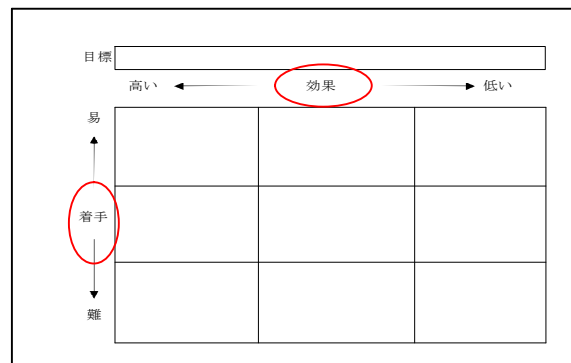
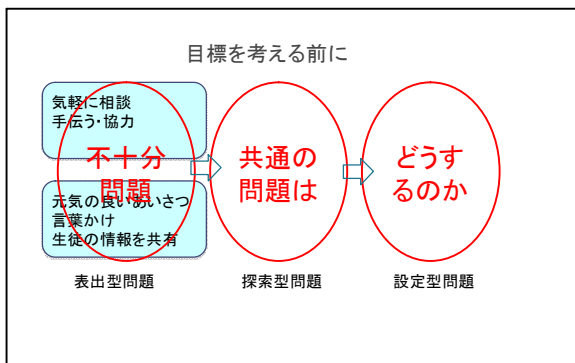


(4) 職場の現状を聞き取り

聞き取りでは、(3)で文章化した目指す姿に対して職場の良さは何かを意識して聞くようにした。そして、今ここまでできている、更に良くするにはどうしていったらよいのかと前向きに検討することを大切にした。

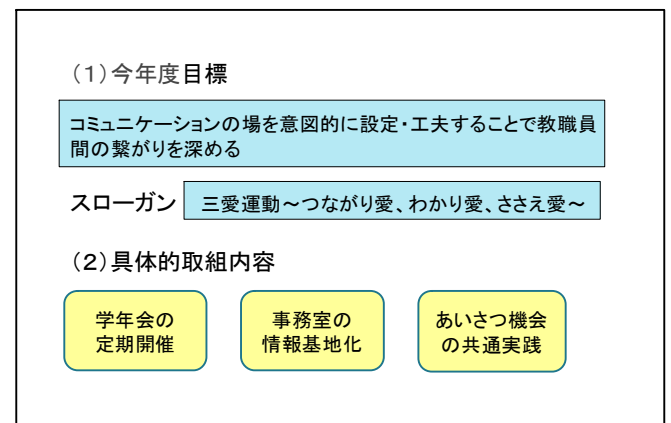
(5) 目標と対策の検討

問題探索をしてから目標を立て（左下）、着手性や効果性を軸としたシート（右下）に対策を振り分けた。しかしグループ毎に異なる目標のまま対策を考えたので、出てきた対策は多岐にわたってしまった。探索型問題は何かを協議し、目標を決定・共通理解してから後日対策を話し合った方がよかった。



(6) ビジョン展開シートの作成

(5)での各グループの協議を受け、企画委員会（管理職、教務主任、学年主任、養護教諭、事務副主幹で構成）でビジョン展開シート案を作成し、今年度の目標、スローガン、具体的取り組み内容が決まった。企画委員メンバー構成の持ち味をいかした大山中学校らしい内容となった。



5 研究のまとめ

取り組み期間が短いため結論が十分に出ないが、次のような取り組みの成果や変化が見え始めている。

○学年会の定期開催

「学年団として、行事などに向けた取り組みの内容や見通しが話し合われるので動きやすいし、生徒間のトラブルがあっても事例の報告ばかりではなく対策を相談できるので、学年会の開催は良いことである」という肯定的意見が聞かれる。

○『事務室の情報基地化』

教職員が保護者などの来校者がいつ来られるのかを一言連絡するようになったので、お茶の準備等で慌てなくなり待遇が改善されてきた。また、情報の受信だけでなく、教職員の目につきやすい場所に書籍の中から抜き出した一言や心に残る詩を掲示するなど、事務室から情報を発信しようとする動きが見られ始めた。

○『あいさつ機会の共通実践』

自分のできることからやっという思いから、正門であいさつ運動をする女性教職員が見られ始め、これまで男性教職員だけのあいさつ運動の光景に柔らかさが生まれてきた。大きなあいさつの声を意識する教職員も多くなった。

6 今後の課題

教職員に組織マネジメントの必要感を高めていくことは大きな課題である。必要感を高めるには組織マネジメントをして良かったという効力感や、他校でのマネジメント成功事例などの刺激があればより良いと思うのだが、初めて取り組むとなると一歩を踏み出すことをためらってしまうこともある。そこで、一人で取り組みを引っ張ろうとするのではなく、校長先生や教頭先生をはじめ、複数の教職員で相談しながら「やってみよう」と牽引していくことが大切だと考える。また、話し合いの時間をいかに生み出すかも重要である。

7 おわりに

今回の話し合いの中で、「目指す生徒像実現のために重点的に取り組むことを話し合おう」「褒め殺しに終わらない授業研究会となるようにしていこう」「学校・職場環境をより良くしていくための提案の場をもとう」という声が聞かれたり、気づいたこと・アイデアがどんどん発信できる職場、教育について気軽に語れる職場を望んでいる教職員もいた。こうした考えの教職員を巻き込みながら学校経営に参画していくことで、大山中学校教職員全体としての教育活動の質を今まで以上に高めていけるのではないかと考える。